

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2035号 2010年09月21日(火)

《 so far so good 》

今週は既に始まっているので短めにしますが、週初に一番注目したニュースは、

「アメリカのリセッションは昨年6月に終わっていた」

「しかしリセッションは脱したものの、アメリカ経済は弱さに直面している」

という National Bureau of Economic Research's Business Cycle Dating Committee の判断だろう。これを報じたウォール・ストリート・ジャーナルの記事は以下のように報じている。

「The U. S. recession that wiped out 7.3 million jobs, cut 4.1% from economic output and cost Americans 21% of their net worth ended in June 2009, marking the longest and deepest slump since the Great Depression. But even as the end to the recession was officially called, a new report highlighted the weaknesses still facing the U. S. economy.

The country's economy has struggled to find its feet since that low point and still faces stubbornly high unemployment and slow growth.」

このニュースの読者なら良くご存じだが、この委員会はアメリカの景気の境目を判断する。「去年の6月にリセッションが終わっていた」というのは、ちょっと驚きの判断だし、その次に続く「the weaknesses」という複数形の「弱さ」は気になるところだ。無論、失業率の高さは入るのだろう。この判断を受けて週明けのニューヨークの株式市場は上げたが、問題は今後この「弱さ」をどう評価するかだ。

今週は21日にFOMCが開かれる。「新たな金融緩和はない」との見方があるが、ドル・円相場を考える上でもこのFOMCの結果は重要である。日本の介入は民主党の代表選が終わった直後に82円台に顔を突っ込んだところから始まり、当初は揺れもあったが、その後は85円台で安定した動きを示している。そういう意味では、介入は成功したと言える。

しかし介入後に85円台で相場が止まっているのは気になる。あまり固定すると、「操作している」ということになり、実際に米議会ではそういう批判が出てきている。今までの所、

日本の単独介入に対する見方は様々だ。米下院歳入委員会のレビン委員長が「非常に困惑している」と語ったのは、全くの想定内でしょう。ミシガン州選出の議員であり、かつ彼の委員会が人民元の問題を扱う冒頭の発言ですから。

中国は露骨にこの委員会開催に対応して人民元を史上最高値に誘導した。こちらの方がはるかに操作なのだが、「政治的なうまさ」はある。一方欧州委員会は日本の介入を受けた15日に、日本が円高阻止を目指して市場介入に踏み切ったことを受け、「急激すぎる円高は景気回復を脅かす要因になる」との認識を示した。

以前も書いたが、円相場がまるで炭鉱のカナリアのような役割を押しつけられていて、「円高＝世界経済の危機」のような印象が強まるのは、日本ばかりでなく世界にとっても危険だ。よって、日本が単独介入しても大きな反発は起こらないと判断していた。実際に、世界の株式市場は全体には強い展開をしている。

しかしいつでもそうですが、「介入後」がいつでも難しい。今の85円台の安定は誰のために役立つのか分からない水準だ。財務相・日銀の介入姿勢は「82円台が防衛ライン」（仙石官房長官）というだけで、それを3円でも離れた相場をどうするかに関しては意見をお持ちではないようだ。

市場をずっと見てきた人間に言わせると、政府が「ここが防衛ラインです」なんて表明するのは愚の骨頂。Wさんが言っている通り、酷い素人発言だ。しかし問題はそこではなく、「言われたからやった」程度の介入だといずれ市場から見透かされるということだ。実は今後の市場運営、市場とのやりとりが難しいと考える。

《 how to govern Japan 》

先週は週初に民主党の代表選があった。ご存じの通り菅首相が完勝した。しかし終わってしばらくたっても、「何か変わったのか」「(代表戦は)日本にとって意義あることだったのか」と自問自答せざるを得ない現状がある。「この選挙で負ければ小沢氏の政治生命は終わる」ようなことも言われたのに、全くそんなことはない。411の国会議員のうち200人が小沢さんを支持したとなれば、「死ぬ」どころか、立派な対抗勢力。むしろ、新聞は「一兵卒が一番怖い」と書き立てるし、副大臣、政務官には「小沢グループからの登用が続いている」と報じられる始末だ。

政治は何よりも成果です。国民は政権に外交から経済まで、その舵取りを任せている。ではこの2週間の間に何が起きたかと言えば、円高進行で日本経済に対する見方はちっとも好転しなかった、かつ中国との関係はかなり緊迫してきた。そして、アメリカはアジアの同盟国の伝統的な呼び順を変えた。真っ先に来るのは韓国になった。

そんなことはどうでもいい、という見方は出来る。しかし、勝った菅首相には、二つの点を忘れて欲しくない。なぜ勝てたか。第一は、「たった3ヶ月で日本の首相の首をすげ替えるのは良くない」という党员・サポーター、地方議員、そして国会議員の間にあった、ある意味での常識。この常識をあざ笑うことは出来る。しかし、無視しがたい常識だ。

次に、相手がたった3ヶ月前に「政治とカネ」の問題で党の中枢から下りたばかりの小沢元幹事長だった、ということだ。相手が違ったら、菅さんの優位はかなりゆらいだと思う。「私は今までの調査で潔白だ」という小沢さんの主張にはやはり無理があった。

つまり菅首相の大勝（党员・サポーター票が総取り制の影響が強い）は、菅さん自らの大きな勝利というよりは、「他に選択肢がなかった」という結果に過ぎない。党内で菅さんを最初から支持した有力者の大部分は、「積極的な菅首相支持」ではなかった。どちらかと言えば、「消極的」と言えた。

先週火曜日の二人の15分の立ち会い演説を聴いて、「迫力がないのは菅首相だ」と私は思った。下を向いている時間が長かったし、言い間違えは多かった。とても練習したとは思えない。あの議員の前職を全部羅列していた場面では、気持ちは分かるが、冗長で「もうやめて」と思ったほどだ。会場からも失笑が漏れていた。野党時代の切れは失せていた。

確か菅さんは「412人内閣」と言った。しかし民主党の国会議員は直前に一人辞めて411人になっていた筈だ。小さいことをあげつらうのではない。数は重要だ。消費税議論の時に、その除外年収に関して200万と400万の間で数字がぶれたときもそう思った。15分の演説全体も「何を言いたいのか」が全く分からなかった。「職」と何回も叫んだが、ではその「職」を「国家財政に負担なく生むのは企業だ」という認識がない。これは小沢元代表の演説にも言える。

消費税にも触れなかったし、普天間問題にも触れなかった、と私は記憶した。もっぱら彼が語ったのは「自分の政治の原点」「人々の優しさや思いやり」に対する思いだけだ。しかし今の日本は経済の行き詰まり故にそれらが欠ける事態も生じている。だとしたら、何をすべきか。

「消極的な二つの理由」で菅さんを再び首相に選んだ民主党。まずは「ただちの分裂」はなさそうだ。小沢さんは「一兵卒」になるという。しかし二人の演説では、小沢さんの方が「外」を向いていた。菅さんの演説は「党内向け」「内向き」の印象がした。「圧勝」と言われる割には中味がない気がする。そこをどう肉付けするのか。党の支持が一本化した首相の腕の見せ所だ。とにかく彼に「切れ」が戻らないことにはどうにもならない。菅首相には決断力と指導力、それに何よりも成果を見せて欲しい。今の日本はそれを欲している。

今週の主な予定は以下の通り。

9月21日（火）

7月景気動向指数（改定値）

米8月住宅着工件数

米8月建設許可件数

米FOMC

韓国休場（中秋節）

9月22日（水）	7月全産業活動指数 8月スーパー売上高 8月コンビニエンスストア売上高 APEC観光大臣会合（23日まで／奈良） 米7月FHFA住宅価格指数 中国・韓国・台湾休場（中秋節）
9月23日（木）	東京市場休場（秋分の日） 米8月コンファレンスボード景気先行指標総合指数 米8月中古住宅販売件数 日米首脳会談（国連総会出席に伴い） 中国・韓国・香港休場（中秋節）
9月24日（金）	米8月耐久財受注 米8月新築住宅販売 中国休場（中秋節）

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。夏は終わりつつあるが、なぜかちょっと油断すると凄く汗をかくということ。この週末も出かけた場所、場所で凄く熱く感じた。今週の後半が待ち遠しい。今週は23日も日本は休みです。

それにしても、毎日午後6時頃のケイタイに入る速報が気になる。白鵬の連勝が続いているからだ。大騒動の中でも名古屋場所に相撲を見に行っただの大の相撲ファンですから。

白鵬が恵まれた環境にいることは確かです。一人横綱。日本人の力士に彼を脅かしそうな人は今はいない。豊真将などに期待はしているのですが、彼はちょっと上との対戦が弱すぎる。上への突破力がない。琴欧洲は精神的に弱いし、把瑠都はもうちょっと強くなると駄目。しかし、「連勝を続ける」ことはそれはそれは大変だと思う。一瞬の判断ミスが負けに繋がる相撲ですから。

そういう中で白鵬は56連勝まで来た。残るは双葉山の69連勝のみ。この二つを単純に比べることは出来ない。一年に開催する場所の数も違うし、当時は確か「制限時間」というのがなかった。テレビ中継から相撲を6時に終える理由はなかったのだ。

それでも、朝青龍にぶつかっては負けていたときの白鵬を知っているだけに、よくここまで強くなった、と思う。精神的にも強くなった。先の場所でNHKが中継をやめたときには、「相撲が死んでしまう」と懸念を表明。よく言ったと思う。相撲は世界の様々な国で中継されている。モンゴル、ブラジル、ハワイなどなど。そういう意味では、「国内事情」だけでの中継中止は良くない。もっとも、相撲界は「不祥事の連発」を避けるべきですが。

それでは皆さんには良い残りの一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》